

-般国道9号江津道路建設予定地内

工藏文化財発掘調査概報

(鹿伏山遺跡、半田浜西遺跡)

1993年3月

工事事務所
等委員会

序

建設省浜田工事事務所においては、活力に満ちた石見地方を目指して、くらしの利便性、安全性、快適性の向上を図り、人や自然にやさしい環境形成にも配慮しつつ、道路整備を進めているところあります。江津地区においても一般国道9号の交通混雑を緩和して円滑な交通を確保し、地域社会の発展に資するため、一般国道9号のバイパスとして江津道路の事業を進めています。この道路は当面、山陰自動車道の機能も併せ持つ道路として活用を図ることとしており、国土の骨格を担う重要な道路でもあります。更に、過疎化が進み、若者の流出に悩むこの地域に活力を吹き込む道路でもあります。

道路整備に際しては、埋蔵文化財の保護にも充分留意しつつ関係機関と協議しながら計画していますが、避けることのできない文化財については、道路事業者の負担によって必要な調査を実施し、記録保存を行っています。

江津道路においても、道路予定地内にある埋蔵文化財について島根県教育委員会と協議し、同委員会や江津市教育委員会の御協力のもとに平成3年度から発掘調査を実施しております。

本報告書（概報）は、平成4年度に実施した「半田浜西遺跡」及び「鹿伏山遺跡」の調査結果をとりまとめたものであります。本書が郷土の埋蔵文化財に関する貴重な資料として、学術および教育のために広く活用されると共に、道路事業が埋蔵文化財の保護にも充分留意しつつ進められることへの御理解をいただくことを期待するものであります。

最後に、今回の発掘調査及び本書の編集にあたり、御指導御協力いただいた島根県教育委員会ならびに関係各位に対し心より謝意を表するものであります。

平成5年3月

建設省中国地方建設局浜田工事事務所

所長 増 本 照 也

序

島根県教育委員会は、建設省中国地方建設局の委託を受け、平成4年度に一般国道9号江津道路建設予定地内の鹿伏山遺跡、半田浜西遺跡の調査を実施しました。

江津道路の調査は、平成3年度に江津市教育委員会が鹿伏山遺跡、半田浜西遺跡、カワラケ免遺跡のトレンチ調査を実施されました。本年度は、島根県教育委員会がその調査結果に基づき鹿伏山遺跡、半田浜西遺跡の本調査に着手しました。半田浜西遺跡では、弥生時代以降中世にまで及ぶ集落の跡を検出しました。特に奈良時代の遺物として、奈良三彩の破片2点が出土し当時の公的な施設が付近に存在したものと想定される貴重な発見となりました。本報告が、広く埋蔵文化財に対する理解と关心を高めることに多少なりとも役立てば幸いです。

なお、調査にあたりご協力頂きました建設省浜川工事事務所をはじめ関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成5年3月

島根県教育委員会教育長

坂 本 和 男

例 言

1. 本書は建設省中国建設局の委託を受けて、島根県教育委員会が平成4年度に実施した一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査の調査概報である。

2. 本年度は、鹿伏山遺跡、半田浜西遺跡の調査を実施し、発掘地は次のとおりである。

鹿伏山遺跡 島根県江津市郡野津町2185

半田浜西遺跡 島根県江津市二宮町神主960 他

3. 調査組織は次のとおりである。

事務局 日次理雄（文化課長）、勝部 昭（埋蔵文化財調査センター長）、山根成二（文化課長補佐）、久家儀夫（同課長補佐）、高橋 研（文化係長）、伊藤 宏（文化係主事）、工藤直樹（企画調整係主事）、有田 實（島根県教育文化財団嘱託）

調査員 西尾克己（埋蔵文化財第3係長）、広江耕史（文化課主事）、太田浩司（教諭兼主事）

調査指導者 田中義昭（島根大学法文学部教授）

村上 勇（広島県立美術館主任学芸員）

矢部良明（東京国立博物館陶磁室長）

遺物整理 今片静子、河野八重子、石川真由美、内海紀子、石井完厚

4. 本書で使用した遺構略号は、次の通りである。

S D - 溝、S B - 挖堀柱建物跡、S K - 土壙、P - ピット

5. 本書で使用した方位は真北を示す。

6. 本書に掲載した「遺跡位置図」は、建設省国土地理院発行のものを使用し、「調査区配置図」は、建設省浜田工事事務所作成のものを抄写して使用した。

7. 本遺跡の出土遺物及び実測図、写真は島根県教育委員会で保管している。

8. 本書の執筆、編集は広江と太田が協議して行った。

I 位置と環境

鹿伏山遺跡は江津市都野津町地内にあり、和木川流域の、海岸線より南へ1.3kmの標高80mの丘陵尾根上に所在する。このあたりは山林が広がっており、江津市沿岸部のような砂の堆積は見られない。

半田浜西遺跡は、江津市二宮町神主に所在する遺跡で、海岸線より南へ1kmの水尻川に沿った標高20mの丘陵斜面上に位置している。この丘陵部から海岸線にかけて砂が堆積しており、この遺跡では約5mの深さがあり、砂の下より遺構面を検出した。

江津市では、今のところ先土器時代の遺跡、遺物は見つかっていない。次の縄文時代になると中期から晩期にかけての波子町大平山遺跡群など数箇所の遺跡が発見されている。特に波子遺跡は山陰地方における有数の縄文時代遺跡であり、縄文中期の地域的な土器形式として「波子式」が設定されている。

弥生時代の遺跡は都野津町の稻荷山遺跡、同町の半田浜遺跡、後地町の波来浜遺跡などがあげられる。稻荷山遺跡、半田浜遺跡では弥生時代中期の土器片が発見され、江津では、水田耕作を中心とする生産体制がまず都野津一帯に浸透し、弥生後期に至ると江津一円に広がっていくとされる。また、二宮町神村には南ヶ崎1号墓があり、弥生時代の墳墓として特徴的な四隅突出型方形墓の可能性があるものと考えられている。

古墳時代では、集落跡として散川町古八幡遺跡、波子町大平山遺跡、都野津町半田浜遺跡がある。古墳では7世紀の古墳時代終末期に造られた都野津町二又古墳、千田町高野山古墳群がある。これらの古墳は横穴式石室を備えている。和木川流域では、須恵器の生産が始まられ、久本奥遺跡において窯跡が確認されている。

律令時代には、二宮町に石見二宮（多鳩神社）があることなどから山陰道が通っていたという説がある。半田浜西遺跡において多くの遺物が出土している。

中世では、江津を中心に勢力を持ち、中世水運で栄えた都野氏と深く関わっていたとされる二宮町神主城跡がある。

参考文献

『江津市誌』

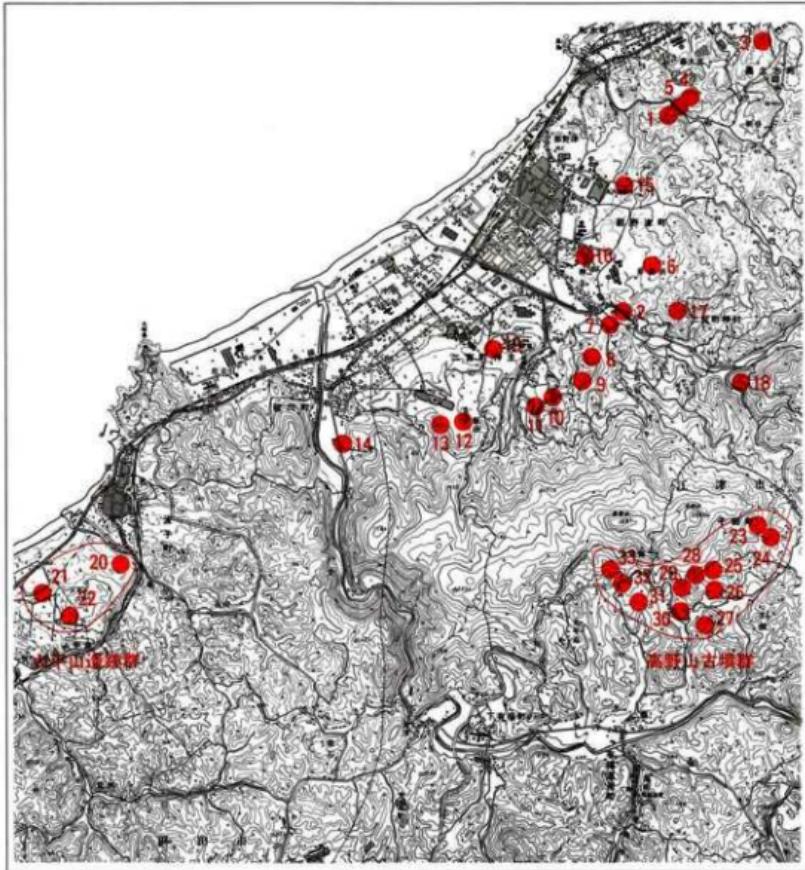
江津市

1982年

『島根県遺跡地図II（石見編）』

島根県教育委員会

1992年



第1図 半田浜西遺跡、鹿伏山遺跡と周辺の遺跡

- 1. 鹿伏山遺跡
- 2. 半田浜西遺跡
- 3. 嘉久志遺跡
- 4. 久本奥窓跡
- 5. カワラケ免遺跡
- 6. 半田浜遺跡
- 7. 二宮B遺跡
- 8. 二宮C遺跡
- 9. 神主城遺跡
- 10. 恵良遺跡
- 11. 鮎田C遺跡
- 12. 鮎田A遺跡
- 13. 室崎商店裏遺跡
- 14. 古八幡遺跡
- 15. 二又平古墳
- 16. 稲荷山遺跡
- 17. 雨ガ崎1号墳
- 18. 神村城跡
- 19. 青山遺跡
- 20. 波子遺跡
- 21. 大平浜遺跡
- 22. 越峠遺跡
- 23. 八幡社古墳群
- 24. ツツラヤブ古墳
- 25. 寺床古墳群
- 26. 岩田氏宅裏古墳群
- 27. 白石古墳
- 28. 金クソ古墳
- 29. 岬田野地古墳群
- 30. ダイ古墳群
- 31. 大溢古墳
- 32. 恵後古墳群
- 33. 岩本古墳群

II 調査に至る経緯

江津道路は建設省により4車線道路が計画されている。平成元年に嘉久志町～敬川町間の分布調査を行い、その結果13箇所の遺跡が確認された。

平成3年1月に4者協議（建設省浜田工事事務所、県土木部、県文化課、江津市教委）が行われ平成3年度は、建設省の委託を受け江津市が発掘調査を行うこととなった。同年7月に半田浜西遺跡、平成4年1月にカワラケ免遺跡、施伏山遺跡のトレンチ調査を行った。これらの遺跡の調査後に建設省、江津市教委、県教委の3者で協議を行い、平成4年度から県教委が調査に入ることになった。

本年度は、施伏山遺跡、半田浜西遺跡の本調査と二宮C遺跡、室崎商店裏遺跡のトレンチ調査を行った。

III 調査の経過

施伏山遺跡は、5月18日から前年度調査で土壤を検出した部分の周辺に調査区を設定した。同月29日に土壤状の落ち込みを検出し、6月4日に実測を行い終了した。

半田浜西遺跡は、5月27日から表土の砂を除去し調査に入った。7月2日に前年度調査で検出していた石積みの続きを検出し、実測を行う。7月27日に半田浜西遺跡の現場において田中・村上両先生より調査指導を受ける。調査区東側において柱穴を検出する。9月10日にSB-01の写真を撮影し、実測を行う。10月6日から調査区東側において出土した竈の実測と写真を撮影し、取り上げる。竈が出土した部分を掘り下げたところ古墳時代前期の土器が出土した。12月2日に調査区の全体写真を撮影するために清掃したところ、溝とそれに並行するように位置する柱穴を確認し出土した土器より古墳時代前期の住居跡であることが判明した。同月3日に住居跡の実測を行い、半田浜西遺跡の調査を全て終了する。

二宮C遺跡は、7月15日に椎木伐採の立会をおこない、同月27日よりトレンチ調査を行う。総数22本のトレンチを堀上げ、第17トレンチより土師器が出土している。11月13日にトレンチの埋め戻しを行い調査を終了する。

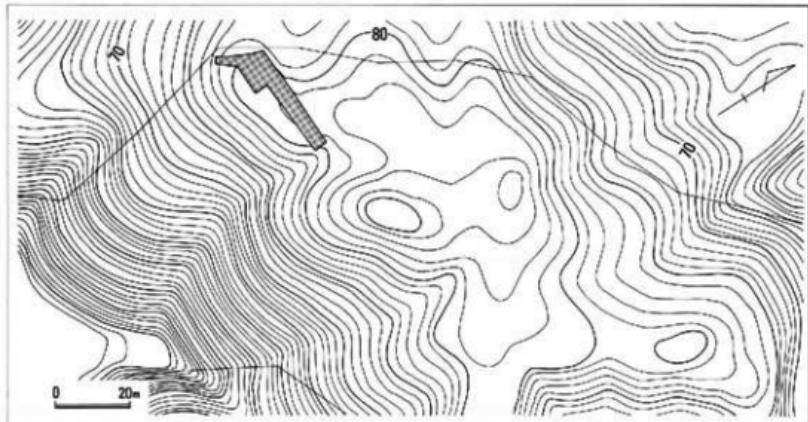
室崎商店裏遺跡は、11月16日からトレンチを設定し調査を開始する。遺跡の北側に現代の瓦窯の工場があり、遺跡の表面に瓦、陶磁器が散布している。総数10本のトレンチを掘り下げるが、遺構遺物は検出していない。

IV 調査の概要

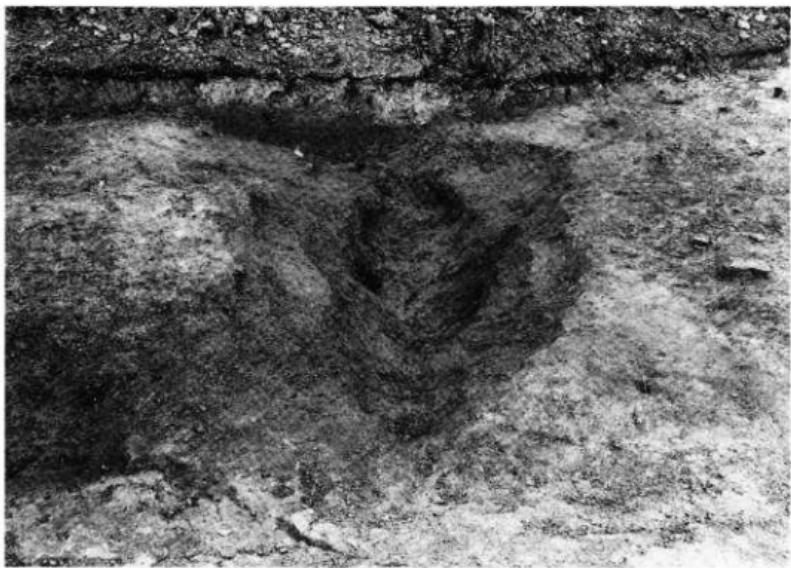
鹿伏山遺跡

今回の調査では、平成3年度の江津市教育委員会の試掘調査の結果から土壌を検出した部分について $8 \times 30\text{m}$ の調査区を設定した。調査区は標高80mの丘陵となっている。調査の結果、土層は黄褐色土の一層であり、20cmを測った。この土の中では若干の炭化物を含むが、土器等の遺物は検出されなかった。地山は東から西に向けて緩やかに傾斜している。

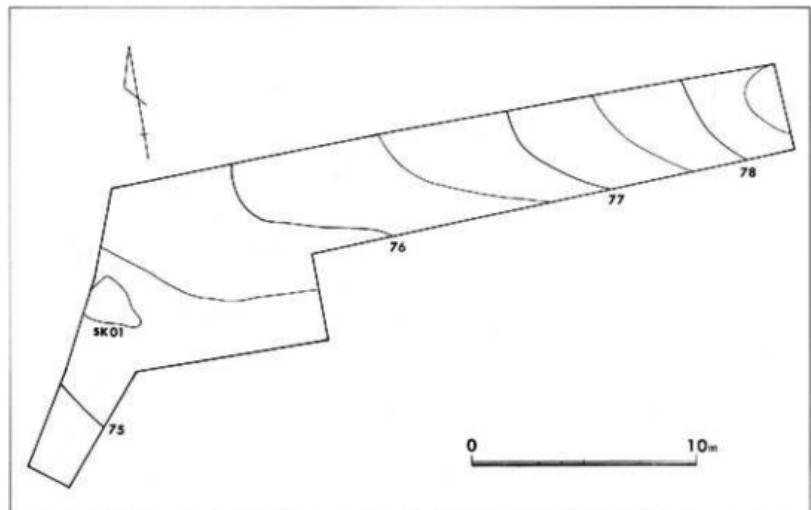
土壌(SK-01)は調査区の西端にあり、前年度検出した地点の西側を拡張したところ、その続きを検出した。長軸260cm、短軸520cm、深さは40cmを測った。傾斜は比較的緩やかで一部二段になっている。覆土は下から黄赤褐色土、暗褐色土、黄褐色土、赤褐色土の順に堆積している。焼土、炭化物を多く含んでおり、火の使用が認められる。土壌の東側の床面より縄文土器の破片1点が出土している。土壌は一基のみの検出であり、性格は不明である。



第2図 鹿伏山遺跡調査区位置図



図版1 鹿伏山遺跡土壤検出状況



第3図 鹿伏山遺跡調査区全体図

半田浜西遺跡

半田浜西遺跡は江津市二宮町神主の標高20mの南向きの丘陵上に位置している。この場所は、日本海から水尻川を南へ1km入ったところで、平野の東端である。遺跡の南正面には、神主城跡が位置している。

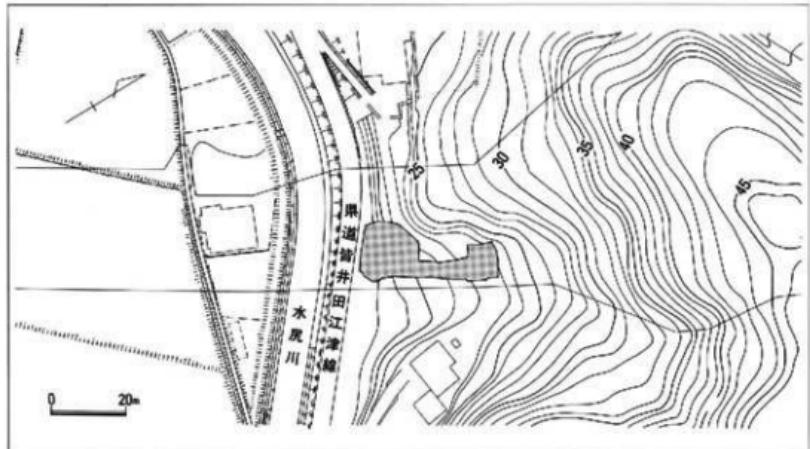
今年度は、前年度の調査結果により調査区を設定した。検出した遺構は、掘建柱建物跡2、溝10、土壙1、ピット多数、石積みである。

S B - 01 調査区の中央部において検出している。加工段は、東西7.2m、南北4mを測る。建物は、1間×1間で、柱間距離は、1.2mを測る。加工段の覆土中より土師器が出土しており、この建物の時期は古墳時代と思われる。

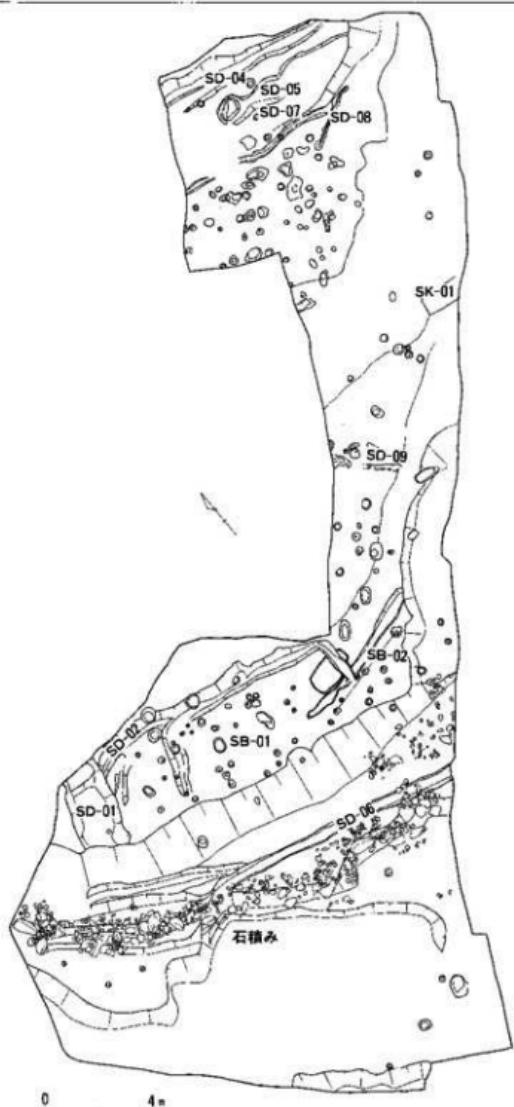
S B - 02 調査区の中央部東側において検出している。東西方向に走る溝(S D - 10)の南側に並行して柱穴3が位置している。これらの柱穴の中には、10~15cmの石があり、柱の根石にしたものと思われる。この建物の時期は、柱穴と根石から出土した土器から古墳時代前期と思われる。

S D - 01 調査区の中央西側において検出している。幅1.6m、深さ0.4mを測り、南北方向に走る。溝内から須恵器、高杯が出土しており、この溝の時期は平安時代と思われる。

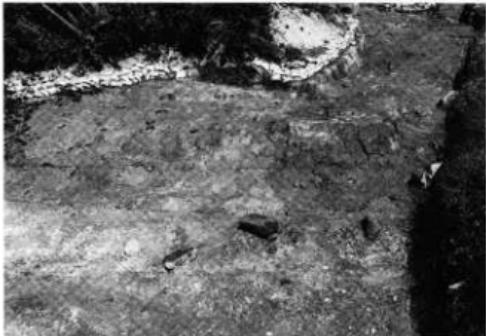
S D - 03 調査区中央西寄りにおいて検出している。幅0.4m、深さ7cmを測る。溝内より陶磁器が出土しており、時期は鎌倉時代と思われる。



第4図 半田浜西遺跡調査区位置図



第5図 半田浜西遺跡遺構全体図



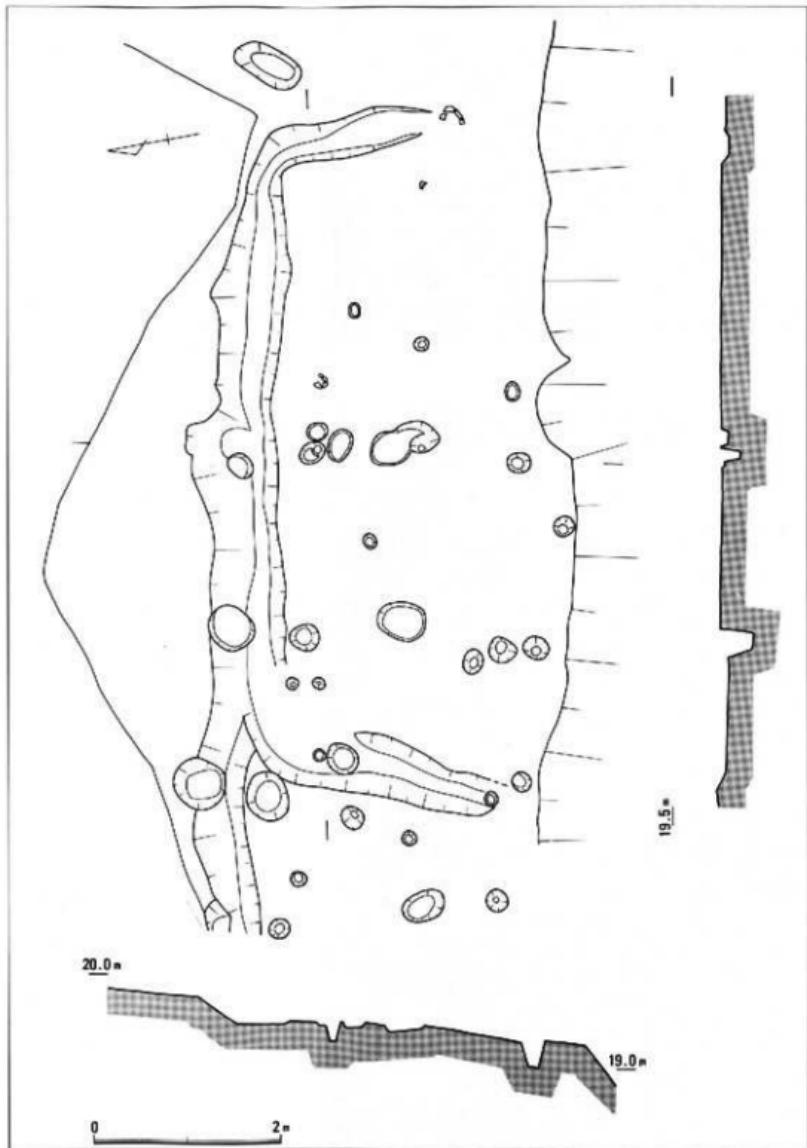
図版2 半田浜西遺跡全景(西より)



図版3 石積み(南より)



図版4 SB-01全景(西より)



第6図 半田浜西遺跡 SB-01実測図



图版5 SB-02全景



图版6 出土遗物



图版7 三彩 陶磁器

S D-04、05 調査区の北東側において検出している。溝内から出土した陶磁器から鎌倉時代と思われる。

石積み SB-01の南側の斜面を保護するために、大小さまざまな大きさの自然石が積まれている。この石の中からは、平安時代～室町時代の陶磁器が出土している。

遺物の概要

遺物は、古墳時代～平安時代にかけての土師器、須恵器、平安時代～室町時代の陶磁器、土師器が出土している。調査区の東側からは、古墳時代後期の須恵器とともに土師器、甕、高杯、竈が出土している。竈は、4個体ありいずれも焚口の上部にのみ軒庇が付くものである。奈良時代の遺物として、包含層から奈良三彩の破片2点が出土している。胎土は白色で、外面に白色・緑色・褐色の釉が、内面に透明釉がかかる。平安時代の遺物は、風字甕、灰釉陶器・碗、東播系須恵器・鉢、土製分銅、中国製陶磁器・青磁(越州窯)・白磁が出土している。

V む す び

半田浜西遺跡は、調査区の東側が谷部となっており、古墳時代・前期、後期の土器が入り込む包含層となっている。この包含層の上を造成し、奈良時代以降室町時代までの遺構が見られる。西側の斜面の石積みは、遺構面を補強するためのものと思われる。奈良時代～平安時代の出土遺物に奈良三彩、陶碗、中國製輸入陶磁器等が含まれることより、この遺跡とその一帯に公的な施設のあった可能性がある。室町時代以降近世の初頭までは、砂丘の形成により住居の場としては適さなかつたようである。

平成5年3月発行

一般国道9号江津道路建設予定地内

埋蔵文化財調査概報

(鹿伏山遺跡、半田浜西遺跡)

編集・発行 建設省浜田工事事務所

鳥取県教育委員会

印刷・製本 有限会社 松陽印刷所